

令和5年度 市小・中連携研修会（吉田南中グループ）開催要項

1 目的

小学校と中学校が連携を深め、9年間の学びの連続性を追求することを通して、小・中学校の円滑な接続及び確かな学力の育成や生徒指導等の充実等を図ることを目的とする。

2 研究主題

「確かな学力の育成及び生徒指導の充実」

些細なことでも連続性を
小さいところから共通実践を

3 研究の視点 ※ _____ はR4部会より

(1) 学習方法（確かな学力の育成）

- 学力向上対策の推進（R4学力向上タイムでの取組）
⇒学定の分析を基にした共通実践事項はどうか。
- 家庭学習の充実（家庭学習強調週間は今後も継続）
⇒予習－授業－復習の流れを小学校でもできないか。

共通実践事項の徹底
と見直し

(2) 生徒指導（生徒指導の充実）

- 情報機器への関わらせ方、情報モラル教育の在り方
⇒タブレットPC活用については必須
- いじめ、不登校（傾向）対策

共通実践事項の徹底
と見直し

(3) 特別支援教育（特別支援教育の充実）

- 特別支援教育の実践を通じた各校の現状
- 関係機関・関係者との連携
⇒幼保－小、小－中の連携について
⇒専門機関からの指導助言

共通実践事項の策定

4 各分科会における共通実践事項（案）→第1回分科会の議案

分科会	共通実践事項（案）→協議内容	各学校における検討事項
学 習 方 法	1 予習→授業→復習の流れを意識した授業の実践 → 検討・承認及び内容協議	○ 何年生から（小） ○ 教科 ○ 予習方法
	2 学力調査結果に基づく個別最適な定着指導の場の位置付け → 検討・承認及び内容協議	○ 場の設定（頻度） ○ 内容（教科） ○ 方法
生 徒 指 導	1 情報端末機器とのかかわり方に関する指導の充実（タブレットPC活用を含む） → 検討・承認及び内容協議	○ 場の設定（頻度） ○ 内容（教科） ○ 方法
	2 いじめ、不登校対策としての、「ニコニコチェック」の実施 → 検討・承認及び内容協議	○ 何年生から ○ 頻度 ○ 見取り、情報共有
特別支援教育	1 個別最適な学び支援の推進（効果的なタブレットPC活用等） → 検討・承認及び場の位置付けに関する協議	○ ナビマやデイジー教科書の積極的活用 ○ リテラシー研修
	2 専門機関との連携強化 → 検討・承認及び連携の在り方に関する協議 ※ 学校ごと？、吉田南中学校区全体？	/
共 通	○ 中学校のテスト期間に合わせた「チャレンジウィーク」の位置付け ○ 各学校の研究授業・授業研究の積極的な参加（研修計画共有、案内発出）	/

5 令和5年度の年間計画

期日等	主な内容	会場	参加者
5月11日 (木)	○ 第1回推進委員会 ・ 研究主題や年間計画、共通実践事項の提案 ・ 第1回研修会の日程及び内容確認	宮小	管理職 推進委員
6月19日 (月)	○ 第1回小・中連携研修会 ・ 授業参観、分科会（共通実践事項の承認、情報交換）	吉田南 中	全教員 (管理職1名)
6月～11月	○ 各学校で研究の視点に基づいた実践		
11月13日 (月)	○ 第2回小・中連携研修会 授業参観、分科会（成果と課題、次年度の方向性に関する情報交換）	宮小	全教員 (管理職1名)
11月下旬	○ 各学校での成果と課題の整理		
1月25日 (木)	○ 第2回推進委員会 年間のまとめ及び次年度の計画（R6担当：本名小）	宮小	管理職 推進委員
通年	○ 各学校の研究授業への積極的な参加 ・ 研修計画共有 ・ 研究授業実施の案内公文発出	各学校	全教員

※ 12月と2月の吉田南中学校区校長研修会でも、次年度に向けた方向性や内容の検討及び引継ぎを行うなど、小中連携研修会の在り方について話題にする。

※ 11月13日(月)実施予定の第2回連携研修会について
次の理由から本年度は**参加対象者を全教員（管理職1名）**とする（事務局判断）。

- | |
|--|
| ○ 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため |
| ○ 共通実践事項に関する実践状況について、分科会ごとにワークショップ型のグループ協議を行い、小中連携の重要性に対する共通認識につなげたいと考えるため |

6 申し合わせ事項

担当校について（輪番） ※吉田南中は担当校から外す。

令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
宮小	本名小	牟礼岡小	本城小	宮小

7 分科会運営に係る役割分担

	学習方法部会	生徒指導部会	特別支援教育部会	運営部会
指導助言者	本名小	牟礼岡小	本城小	宮小
司会者	宮小	宮小	宮小	宮小
記録者	本名小	牟礼岡小	本城小	宮小
参加者	本城小	本名小	本名小	本名小
	牟礼岡小	本城小	牟礼岡小	本城小
				牟礼岡小
	吉田南中	吉田南中	吉田南中	吉田南中

8 参考資料～R 4 小・中連携研修会第2回推進委員会アンケート結果集約より～

(1) 令和4年度の経過及び反省等について

- 密な連絡と丁寧な会の運営をしていただいたと思います。
- 第2回→少人数での分科会だったので、より意見を活発に交換することができた。この方向でよいと思う。
- 分科会で確報の実態や方法(取組)を聞くことができたのは大変ありがたかった。情報交換がこの機会にできてよかった。
- 特別支援教育の実践を通した各校の現状を聞くことができてとても良かった。

(2) 令和5年度の計画案について

ア 目的、主題、研究の視点等について

【主題に関して】

- サブテーマのように書かれている、「些細なことでも連続性を、小さいところから共通実践を」がとてもよいと思います。各部会で話し合われている内容もそのような趣旨の内容がまとめられていたと思います。
- 提案のとおりでよい。

【研究の視点に関して】

- 取組の成果や課題が可視化できるものがよいと思います。
(学習方法)
- 予習→授業→復習の流れを小学校でもできないかについて
 - ・ 明日授業で習うところの音読をする程度であれば、小学校1年生でも可能であると思う。
(生徒指導)
- 「情報機器への関わらせ方」「情報モラル教育の在り方」等の題目はあるが、取組方は各校の実態によって変わってくるため、これを「共通実践」という表現にしてよいのか少し不安になった(実態が異なるので全く同じことを行うというもの難しいかもしれない)。
- 不登校対策について、どのようなことをすればよいか共有できないものか(初期対応・未然防止の取組み方)。

イ 年間計画について

【授業参観について】

- 授業参観があることがありがたい。提供校に感謝いたします。
- 授業を通してということにこだわらなくてもよいと思う。

【情報交換会・分科会】

- 6月の中学校での授業参観のあとに、中学校の新1年部と小学校旧6年生の学年担当とで情報交換の時間が設けられたらいいと思います。情報交換会の内容や日程(6月のいつにするか)は、10日の行事調整会でつめさせていただきます。
- 中学校での分科会の設定があるのは、良いと思います。
- 6月の分科会を全職員で行うのに賛成。問題点を共有する機会としたい。

ウ その他

- ～児童のタブレット活用必須を受け～
Teams の有効活用（オンライン会議・日常的な情報のやりとり）を図ることで、職員の ICT 機器に関する理解や技術力の向上が図れないだろうか。
- Teams 等を生かして、オンライン会議を行うことができれば、移動の時間が短縮されると思います。
- 家庭学習の仕方や分からないことをそのままにしておかないなど、学び方を教えたり、獲得させたりしていきたい。
- 中学校の指導について、具体的な話をお聞きする機会が欲しい。
例えば、
 - ・ 長欠者への指導支援について
 - ・ 中学校の家庭学習指導の具体
 - ・ タブレット使用のしつけやルール of 具体
 - ・ 定期テストの結果の返し方
 - ・ 具体的な進路先中学校での指導を念頭に小学校でも指導したい。
小学校でも、例えば高学年児童には4～5年後は高校入試があることを意識させ、学習に取り組ませたい。高校入試は学習の目的ではないが、学習する上での一目標にはなることを踏まえて。